



ハロウィン！ポーポキはかぼちゃが好きですが、お化けは怖いです。みなさん、安全で楽しいハロウィンをお過ごしください。そして、北半球のみなさん、収穫の季節を満喫できるように！



Popoki's Hot News!

ポーポキのピース・ブック3！



ポーポキのピース・ブックシリーズの3冊目、『**ポーポキ、元気って、なに色？**』ができました！お近くの本屋さん、出版社エピック (<https://bookway.jp/epic/>)、神戸 YMCA、ポーポキ・ピース・プロジェクトから入手できます。ご注文、およびご感想をお待ちしています。



「一言の平和」コーナー



ポーポキのお友だちのバシールにゃんから届いた平和。

「誰かに果たすべきことを守れないとき、理由がなんであれ、私は心から平和を感じない。しかし、次にそのチャンスが得られれば、もっと大きな平和が訪れる。そして、人が私の失敗を理解し、受け入れてくれたとき、私の心は更に安らかになる。」

あなたは今日、どんな「平和」に出会いましたか？ぜひお聞かせください。

ポーポキのメール [ronniandpopoki \(at\) gmail.com](mailto:ronniandpopoki(at)gmail.com)！

新しい動画ができました！

ぼくの新しい動画をURLかFBでぜひ観てくださいね！

URL: <http://popoki.cruisejapan.com/videos.html>



いつもご協力、ありがとうございます！

『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』（エピック 2012）はお陰様で好評です。ぜひ広めていただきたいです！

*神戸 YMCA でも販売していますよ！ 本については、<http://popoki.cruisejapan.com/monogatari.html> をご参照ください。



平和と健康について考えるワークショップ

2014年10月5日

英語 あなにゃん
和訳 めりーどにゃん



風もあった晴れの日、ポー会メンバー、さとにゃんはポートアイランドの兵庫医療大学で平和と健康を考えるワークショップを開催しました。私の住んでいるポートアイランドでもっとも好きな所の一つで行いましたので、参加できるのをうれしく思いました。この美しい大学は、キャンパスの外にはコナツツの木の並木道あり、海にも近く、ハーバーランドの夜景も見えます。ワークショップそのものについて

では、少しどうなるかわかりませんでした。幸福の源である平和や健康などのテーマは非常に興味深いように思っていました。



ワークショップの問いかけの中では、「災害の時にどうすれば安全を感じる?」、「より安全・安心を感じるために、どうすればいい?」などがありました。

いついたのですが、もし災害が起こったとしたら、日本語能力より怪我と死の危険を下げるための実際的知識のほうが大事じゃないかなと思います。そして、災害の時にリスクを下げる知識を身につけることだけでなく、他人の助けを必要とする周りの方を助けることも重要

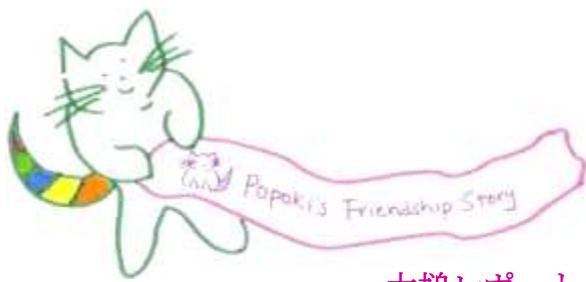
話し言葉にも書き言葉にも慣れていない日本に住んでいる留学生として安全を感じるのは時々難しいので、その問題は私には、とても重要です。しかし、少し後で思



だと思えます。そうすることで、地震や津波、または土砂、大水、台風などの際に安全・安心を作ることができるように思います。



以上の課題についてより批判的に考えるための楽しくてインタラクティブな活動でいっぱいの日でした。この風の強い日に安全な隠れ場所を探していたタイガーのろにゃんと一緒に時間を過ごすことでも、参加者が喜びました!



* ポーポキのインタビュー *

大槌レポート 2014. 9. 19

さとにゃん

もう何回目になるんだろう。

懐かしい大槌町に、また来た。沢山の友だちが迎えてくれて、とても気持ちの良い秋の東北の風を感じた。

しかし、町はいっこうに復興した気配が無く、土盛りも進んでいるようには見えない。

友だちによりと、「津波の後、一年ぐらいは、みんな自分の家の跡を綺麗にしたいくて、せっせと通って草刈りをしたりしていたけれど、復興がどのように進むのかが見えず、何をやっても無駄な気がしてそのうちに誰も行かなくなり、どんどん荒れた感じになった。」



城山公園の上で、町作りの会議にも参加されているおじいさんが教えてくれたことがある。「昔、あの水門ができるときに、水門の内側の人は良いかもしれないが、対面にある赤浜が、打ち返す波で全滅する。」と反対していた。今度も同じようにもっと高い水門を作ろうとしているので反対しているが、きっとできるのでしょうねと言われた。また、今回津波で無くなったところは、昔は全て海だった、と。「人は安全よりも自分にとって便利なように、都合の良いように動くものだ」とも。

震災後写真家として活躍している伊藤陽子さんがドイツで写真展をした関係で、マストで行われていたドイツの高校生と釜石高校の吹奏楽のコンサートにつれて行ってくれた。これらは震災がなければ、決しておこらなかった現実。多くの方が会場で音楽を楽しみ惜しみない拍手を送った。新しい繋がりや古い記憶、連綿と続いていく大切な思い出。



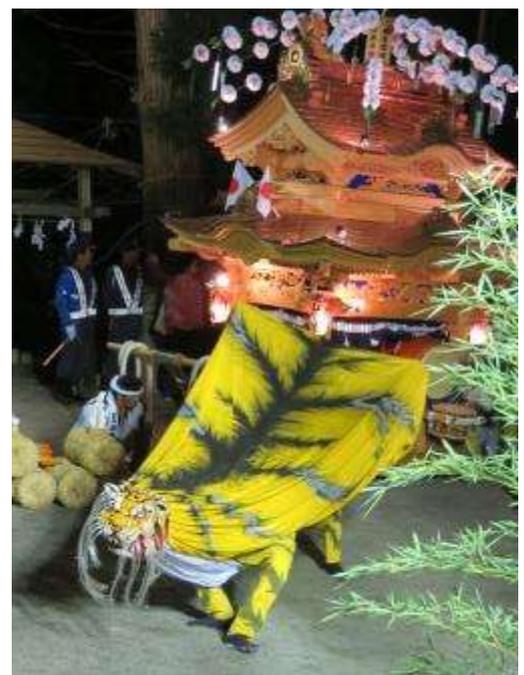


今回の大槌訪問の大切な目的の一つは祭り。残念ながら前夜祭のみ。

今は仮設でバラバラになっている人たちが、自分たちの地区の山車を牽いてそれぞれの舞を披露する。神聖な奉納は神妙に、各地区の特徴のある歌いに合わせて勇猛、軽妙、真剣に。未だよちよち歩きの赤ちゃんも、拍子に合わせて真似をする。間違っても、転んでも、みんなの笑顔が大きくはじける。神社の境内は津波の前に戻っているんだろう。



復興で大切にすべきものは何なのか、また考えさせられた。



ポーポキと一緒にピッツバーグにやってきて間もなく2週間になります。ピッツバーグ大学では客員研究員として同僚の講義を聴いたり、セミナーをしたり、図書館などを楽しんでいます。宿泊先は、姉が5匹のねこと一緒に暮らす家。まだ私を怖がってにげるねこもいますが、どんどん寒くなっていく中、夜中にベッドにやってきて、布団の中に入ってくるねこもいます。姉のおかげで毎日、いろいろな出会いや発見があります。ジャズを聞きに行ったり、散歩やヨガをしたり、展示やアート、講演など、ピッツバーグの文化を味わうことが



できています。特にうれしかったことは、ピッツバーグ子ども博物館でピース・キルト・プロジェクトのレセプションにでることができたことです。同プロジェクトは、8月6日にスカイプする相手の Remembering Hiroshima, Imagining Peace や子どもの博物館の主催です。子どもは、アーティストの指導のもとでキルト用の布地を絞り染めしながら広島・長崎のことを学ぶ。スタッフは出来上がった布地をキルトにし、それらを来年4月にニュー・ヨークで開催される予定の核不

拡散会議に持って行く予定。ポーポキは、Remembering Hiroshima, Imagining Peace の日本のメンバーとして、誇らしかったです。

楽しいことの一つは毎日のランニングです。ピッツバーグは広い公園が多く、散歩や自転車、ランニングを楽しむ人や犬が多い。大学のすぐ近くにもあるので、贅沢な気分です。お天気は変わりやすく、しかも気温はばらばらですが、走りやすい季節です。木々がだんだんに色づくのを見て、毎日感動します。昔、病気のために見えなかったり色がわからなかったりした日々を思い出しながら、今日この瞬間、こうやって生きていることに感謝！



とても感心した活動の一つは「洋服交換」(Clothing swap)。日曜日の昼は、私は家を掃除し、姉がパンプキンパイを作ったり、洋服を用意したりしました。午後になると、大きな袋を背負った人が8人もやってきて、まずはワインとチップス&サルサとおしゃべり。適当にもりあがったところで、だれかが「OKI!」と言って、立ち上がりました。そして、自らがもってきた袋から服を一枚ずつみんなに見せます。「サイズは?」「アイロンは?」「もらうわ!」などと声が飛び交うなか、服を回します。ほしい人がいれば、そこで止まる。いなければ、別の場所において後日野宿者支援をしているセンターへ持って行くことになります。「5年ルール」(5年間使っていなければ出す)とか、痩せたり太ったり、趣味が変わったり、仕事を変えたりすると洋服がそれと共に変わ

るので、みんなの人生を物語る活動でもありました。お金がかからないので、「新しい自分」を試すことも可能！「以前、ここでもらったものを再度出す」というのもありました。私は出すものがなかったけれど、いろいろなものをもらいました。日本でもできたらいいね。

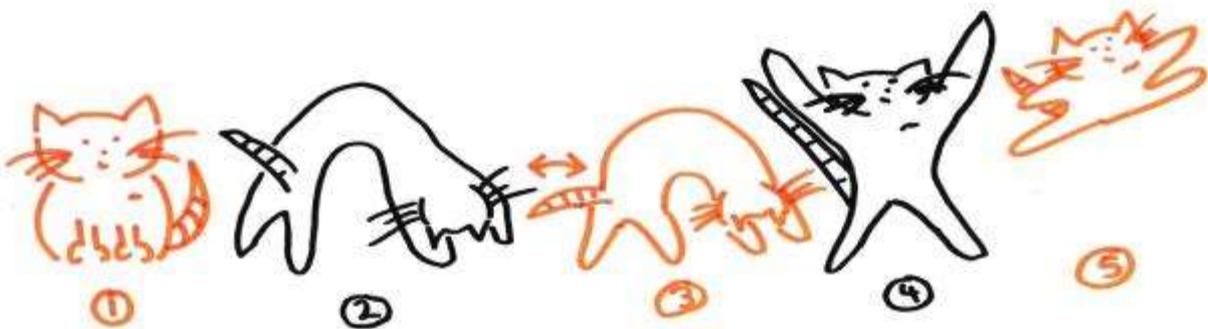
先日は大学でとても貴重な機会を得ました。私をよんでくださった Dr. Louise Comfort 先生は、担当する講義で中間試験の提出後「特別なことを」したいということで私に1時間ほどのポーポキ・ワークショップを頼みました。もちろん、ろにゃんもポーポキも大喜び！安全と安心をテーマに新しいワークショップを実施しました。今はどの程度安心している？安心のにおいて、どんなにおいなど、日常生活や今までの体験の中から食べ物や家族など、大切なもの、安心できる状態などについて話し合いました。信頼、愛、場合によっては衣食住、法律、希望などが安心のために大事で、多様性、きれいな空気や水などはそれほど重要でないと答えました。ひょっとしたら、空気や水のような「あって当たり前」のものは、なくなって初めて不安を感じるのかもしれないと感じました。最後にポーポキの布にそのような「大切」なものを描いてもらいました。家族、知識、平和……。有意義な一時間、ありがとう！



ポーポキちゃんの簡単ポガ教室

Lesson 77

今月のテーマは、ハロウェン・ストレッチ！



1. いつものように、背筋を伸ばし、自分を美しく見せながらちゃんと座りましょう。
2. まず、手と足を床につけてから背中を大きな黒猫のようにまる〜くしましょう。
3. 次は、しっぽを左右に降りましょう！お尻もね。
4. 最後は、上ヘストレッチ！ほうきに乗っている魔女はいませんか？
5. できましたね。では、「できたポーズ」をどうぞ！

お疲れ様でした。少しリラックスできましたか？毎日、深呼吸・笑・リラックス、そしてポガを最低3分間練習しましょうね。

ご一緒にいかが？

次々回のポー会 11月11日 神戸YMCA専門学校(新神戸OPA2階) 19:00~20:30
Rm. 204

12月末 ポー年会

2015年1月17日 ポーポキ at 阪神淡路大震災展(予定)

2015年2月26日~3月2日 ポーポキin大槌町(予定)

2015年3月?日 ポーポキのミニ平和映画祭(予定)

ポーポキの友だちからの知らせ

アフガニスタン産レーズンの輸入販売 (CODE)

*ぶどう畑再生支援プロジェクトにより、ぶどうの収穫量はみるみる増加しました。日本の皆さまにもこれをぜひ召し上がっていただきたい、もっとアフガニスタンのことを知っていただきたいという思いから、ミールバチャコットの農家がつくったレーズンを輸入し、熊本市の(特活)日本フェアトレード委員会のご協力で製品化・販売しています。収穫したぶどうを天日干しにした自然のままのやさしい甘みが好評です。経費を除いた収益はアフガニスタン支援に使わせていただきます。ご家庭用はもちろん、ギフトにもぜひお求め下さい。委託販売も受け付けています。

※詳しくは <http://code-jp.org/afghanistan/index.html>

Popoki in the News

ポーポキ通信のバックナンバー：<http://popoki.cruisejapan.com/archives.html>

- 関西国際交流団体協議会の「デジタルアーカイブ(WEB版の事例集)にポーポキ！<http://www.interpeople.or.jp>
- 『平和を考える絵本出版 被災者支援きっかけに』『神戸新聞』（貝原加奈 2014.4.25 28面）
- 「ボランティア 37 団体に助成 大和証券福祉財団」『神戸新聞』（2013.8.23 朝刊 地域経済 8面）
- 「原爆の熱線で焼き付いたー “人影”再現、非核誓う」『神戸新聞』（2013.8.7 朝刊 22面）
- 「被災 秘めた思い描いて」「ひと抄」『読売新聞』（2013.2.16 夕刊 4面）
- 広岩近広 『安全』『安心』の社会は足元から」、ロニー・アレキサンダーインタビュー 『毎日新聞』 2012.10.29（「今、平和を語る」、夕刊、1面）
- R. Alexander. “Remembering Hiroshima: Bio-Politics, Popoki and Sensual Expressions of War.” *International Feminist Journal of Politics*. Vol.14:2:202-222, June 2012
- 「ポーポキと一緒に作り出す平和の根底に 9 条がある」NO : 66 2012 年 5 月 12 日 [子どもと守る9条の会]
- 「布に希望 60メートル」阿久沢悦子 『朝日新聞』 2012.1.21 (兵庫・29面)
- 「平和祈る声まとめ本に」斎藤雅志 『神戸新聞』 2012.1.19 (伝える 1・17 3・11、22面)
- K. Wada. “Conversations with Ronni Alexander: The Popoki Peace Project; Popoki, What Color is Peae? Popoki, What Color is Friendship?” *International Feminist Journal of Politics* Vol.13, No.2, 2011, 257-263
- S. McLaren. “The Art of Healing”(Popoki Friendship Story Project) *Kansai Scene*. Issue 133, June 2011, p.10. kansaiscene.com
- R. Alexander. (2010) “The Popoki Peace Project: Creating New Spaces for Peace in Demenchonok, E., ed. *Philosophy after Hiroshima*. Cambridge Scholars Publishing, pp.399-418
- 「省窓」『神戸青年』 No.606 2011.1.2 p.1
- No.1 「『ポーポキ、平和って、なにに色？』の背後にあるもの」（連載）とさぼりライフ第 19 号 2010.10:4
- 堀越健志「シリーズ:こくさいのまで⑮(パレスチナについて)『神戸青年』 No.604 2010.9-10
- 「みんなでやれば、何にかが変わる！」 THE YMCA No.607 June 2010, p.1
- [ヒロシマと世界：被爆地の声 非核と平和、復興と再生、許しと命の尊厳訴え] http://www.hiroshimapeacemedia.jp/mediacenter/article.php?story=20100312140608602_ja
- 2010.3.15 中国新聞 ヒロシマ平和メディアセンター
- FM COCOLO 76.5 ‘Heart Lines’ 2010.1.9 Interview: Ronni on Popoki in Palestine
- “Human Rights, Popoki and Bare Life.” *In Factis Pax Journal of Peace Education and Social Justice* Vol.3, No.1, 2009, pp.46-63 (<http://www.infactispax.org/journal/>)
- 西出郁代 「ポーポキ、平和って、なにに色？ロニー・アレキサンダーを迎えて」『PPSEAWA』（日本汎太平洋東南アジア婦人協会）No.63 2009.12, p.5.
- 「友情」第 2 号 2009.11 伊丹市国際・平和交流協会 年間事業報告 pp.1-2
- 「ともに・・・」 No.29 2010.1 家庭と保育所、学校園、地域を結ぶ在日外国人教育情報誌 ポーポキ・ピース・チャンレジ情報 p.12
- 区民情報誌「なだ」 2009.12, p.2. ポーポキ・ピース・チャレンジ情報。
- 「『ポーポキ、友情って、なにに色？』」「私のいち押し」奥田光子 THE GAIDAI 2009.7.17 No.243（関西外大通信）
- 「友情って・・・考える絵本」朝日新聞「生活」(阿久沢悦子) 2009.7.2
- 「友情を考えて人間と、ねこと、そして自分と～」れ組通信 RST/ALN 2009.6.28 No. 259, p.11
- 「カティング・エッジ」第 35 号 2009.6 (北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」)「新刊紹介:『ポーポキ、友情って、なにに色？ポーポキのピース・ブック 2』(レベッカ・ジェニソン) p.3
- 「猫を通して平和を考える 絵本の第 2 弾を出版」（斎藤雅志）神戸新聞 2009.4.21
- 「ポーポキ、平和ってなにに色？」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.3.1 No.593 p.2
- 「ポーポキ、ゴミってなにに色？」KOBE YMCA NEWS「神戸青年」2009.1.1 No. 592 p.2
- 「友だちになってくれませんか？」RST/ALN 2009.2.22
- ラジオ番組の中のポーポキ！！プロジェクト・メンバーの宇留賀佳代子さんがラジオ番組で紹介してくださいました。ぜひお聞きくださいね。 <http://www.kizzna.fm/> 録音番組をクリック。番組 CH の 6CH をクリック。
- やさしいから人なんです展パート20 実行委員会『世界人権宣言』ひょうご部落解放・人権研究所 2008. 10 500 円。詳しくは: blrhyg@osk3.3web.ne.jp
- 「KFAW カレッジ ロニー・アレキサンダー氏 講演会」エイジアン・ブリーズ/Asian Breeze No.54 October 2008, p.8 (アジア女性交流・研究フォーラム)
- 「ピースセミナー in 熊本 あなたにとっての「平和」とは？」Kumamoto YMCA News 10 Vol.437 October 2008, p.1
- 神戸新聞「人権宣言 兵庫から発信 全 30 条 イラストで表現 地元ゆかり 6 名がパネル制作」2008.10.8. 10 面





私にとってのポーポキ

みちにゃん

私とポーポキとの出会いは、2005年の神戸YMCAスタッフ研修でした。わくわくしながらワークショップに参加したことを覚えています。翌2006年は『ポーポキのピース・ブック』の原画展が西神戸YMCAで開催されました。35枚の原画はYMCAを訪ねる人たちの目に留まり、子どもたちや保護者が、またメンバーの皆さんが、原画を見ながらいろいろな話を始めていました。ポーポキは私たちに平和のことを考える機会を与えてくれていることを実感しました。その年の8月、マレーシアで開催されたアジア・太平洋YMCA同盟主催のユースアセンブリーに参加した私たちは、日本YMCA同盟の取り組みである「ポーポキ・ピース・フレンズ・キャンペーン」の紹介と、なんと、ポーポキと一緒にワークショップをすることになったのです。活動紹介は2日間あり、「平和ってなに色？」とポーポキとともに各国の参加者と平和の色を描きました。また、ピース・ブックを読みながらさまざまな意見を各国の友だちと交わしました。心が躍る話もありました。心が曇る話もありました。聴くことの大切さ、伝えることの喜び、真実を知る悲しみ、理解する難しさ、様々な体験をしました。ワークショップを終えた時、「私たちも国に帰ってポーポキの活動をしたい。」「このワークショップに参加して心が温かくなった」とたくさんの嬉しい言葉をもらいました。それまではポーポキの知り合いだった私は、この時からすっかり仲良しになりました。

ポーポキはいつも「平和ってなに色？」「友情ってなに色？」「元気ってなに色？」と、私たちのところに尋ねます。尋ねるポーポキの言葉は私のところに響きます。ポーポキ、いつもありがとう。



さらにご協力ください！



ポーポキ・ピース・プロジェクトは、『ポーポキ、平和って、なに色？ポーポキのピース・ブック1』（エピック、2007年）、『ポーポキ、友情って、なに色？ポーポキのピース・ブック2』（エピック、2009年）、『ポーポキ、元気って、なに色？ポーポキのピース・ブック 3』を題材に、全身で平和の意味を探り、一人ひとりの「発見」を平和の創造に役立てようとする小さな平和活動団体です。また、2011年に起こった東日本大震災をきっかけに活動をしており、『ポーポキ友情物語 東日本大震災で生まれた私たちの平和の旅』という本を2012年1月に発行しました。2006年に設立されて以来、日本国内外で幅広く平和のためのワークショップなどの開催を続けてきました。活動の資金はすべて本の売上や寄付によって行っています。

これからも平和を考えるためのピース・ワークショップ、読み聞かせ、ピースキャンプ参加、ポーポキのピース・ブックの翻訳（『ピース・ブック1』は既に10カ国語に翻訳されている）、『ポーポキのピース・ブック3』の執筆などの活動を中心に活動を続ける予定です。定期例会「ポー会」を月に一度のペースで開催しています。一緒に活動なさいたい方はぜひご参加ください。（ポー会の開催については、ポーポキ通信の「一緒にどうぞ」の欄をご参照されたい。）

また、こういった活動に対してのご協力、ご支援をぜひお願いしたいと存じます。本の購入・寄付・本についてのコメント、感想、注文などについては、popokipeace@gmail.comへお問い合わせください。

なお、本についての問い合わせや注文は、お近くの書店、アマゾン、あるいはエピック（TEL: 078-241-7561・FAX: 078-241-1918）へどうぞ。

ポーポキ・ピース・プロジェクト [popokipeace\(at\)gmail.com](mailto:popokipeace(at)gmail.com)

<http://popoki.cruisejapan.com>



郵便振替口座番号 00920-4-280350

ゆうちょ銀行 店番099 店名099店 当座 口座番号0280350

口座名 ポーポキ・ピース・プロジェクト神戸

ポーポキ平和募金は一口 1500 円 何口でも結構です。



THANK YOU FROM POPOKI!